

.....「史料紹介コーナー」.....

平成26年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

しむら のぶたろう  
 《 下村 延太郎 1867~1947年 》  
 一 京都府出身の海軍中将



**国防問題の研究** (登録番号：①軍備軍縮-295)

下村延太郎中将は、明治24年7月、海軍兵学校(18期)を卒業後、香取艦長、第2艦隊参謀長などの要職を歴任しました。この史料は、大正2年3月、海軍大学校長八代六郎中将や海軍軍令部参謀佐藤鐵太郎少将の他、当時海軍大学校教頭であった下村大佐等6名の連名で作成された冊子「国防問題の研究」です。この中で、日本海軍軍備の最低標準は、アメリカ、ドイツの両国中、「海軍力ノ大ナル一國ニ対シ、其ノ実力ノ約十分七以上ヲ備ヘ地勢上ニ於ケル利益ト実戦ニ関スル経験多キヲカトシ以テ我国防ヲ全フセント欲スルモノナリ」と述べています。日露戦争前後のドイツ、次いでアメリカの大海軍建設の動きは、その後長く日本海軍に大きな影響を及ぼした対米「七割」思想を生起させる要因となりました(他に、佐藤鐵太郎著「国防策議」登録番号：①軍備軍縮-184)。



**海軍兵須知提要** (登録番号：⑦兵術-56)

この史料は、大正9年11月、下村少将が海軍教育本部第1部長のときに発布された「海軍兵須知提要」(海軍教育本部調整)です。「海軍兵日常ノ須知事項ヲ蒐集編纂」した本冊子には、軍艦や軍港、要港などの解説や海軍服装令、海軍礼式令などの諸法規の抜粋のほか、「下士官兵ハ分隊長ニ属シ身上ニ係ル大小ノ事項、公私ノ請願其ノ他特ニ規定アルモノノ外百般ノコト皆悉ク其ノ指揮監督ヲ承ケ(中略)、諸物件ヲ愛護シテ之カ保存整頓及取扱ニ注意シ定則ヲ遵守シ命令ヲ尊重シ任務ヲ知悉シ以テ誠意忠実各其ノ職務ニ勉勵スヘシ」とする下士官兵の心得などが記述されています。日本海軍が初めて作成したこの「海軍兵須知提要」は、兵士にも分かるような解説や図版などを載せた便利なハンドブックとして活用され、諸法規の改正等に伴いその都度修正されました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影こともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
 防衛研究所企画部企画調整課  
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)  
 外線：03-3713-5912  
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>